

岐路に立つ

フラワー長井線

《3》

8/24 新山

一カ月間、基本動作などをみっちり研修。今年四月から乗務を始めた。「車窓からの風景がきれい。日本の古里の原風景が続く。乗務してまだ間もないが、季節の変化が楽しみ」と孫田さん。「安全が第一。特に注意を引き締めた。公共的資金を投入してき

た県が行財政改革大綱に本柱に掲げた。沿って、山形鉄道に対し孫田さんのケースを含めて抜本的な経営改革策を求めた。これを受けて同社は去年六月に策定した経営健全計画。二〇一〇年までを期間とし、①自助努力の住民支援組の発足の自治体の支援を改善策の三

窓口から車掌配置も

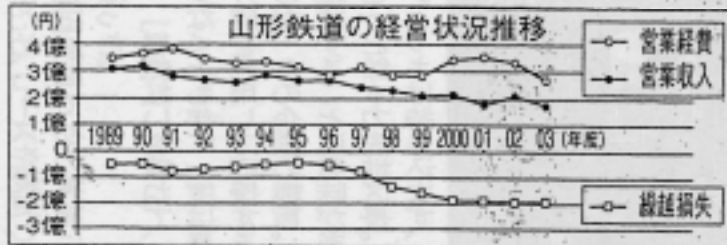
経営健全計画

赤字圧縮へ三本柱

して〇三年度は二億八千五百万円に対して〇三年度は一億九千万円。高校の生徒数の長期的な減少傾向によって減収に歯止めがかからない。②はフラワー長井線を軸に地域の発展に寄与する支援組織としてNPO企業診断士の検討を経て今年六月に修了した第三セクターゆえ、経営陣には地元企業人や教育界から人材を招き入れて、運営基盤を固めてきた。高校長経験者として学校経営から企業経営に転じた高田裕之専務は「地域の高校生のためにひと肌脱ぐつもりで引き受けた。だが、経営は難しい」と胸の内を明かしながらも「いくら厳しいとはいえ、地域のため、まちづくりのためにも投げ出すわけにはいかない」と決意を示した。

今年六月に修了した第三セクターゆえ、経営陣には地元企業人や教育界から人材を招き入れて、運営基盤を固めてきた。高校長経験者として学校経営から企業経営に転じた高田裕之専務は「地域の高校生のためにひと肌脱ぐつもりで引き受けた。だが、経営は難しい」と胸の内を明かしながらも「いくら厳しいとはいえ、地域のため、まちづくりのためにも投げ出すわけにはいかない」と決意を示した。

白のワイシャツにブルの帽子とスポン。さつそうと車掌業務をこなす孫田一美さん(四三)。「本日はフラワー長井線をご利用いただき、誠にありがとうございます。車内アナウンスも板につき、定期券のチェック、運賃の受け取り、安全確認、乗降確認など身のこなしにも自信がのぞく。パート車掌の孫田さん。以前は駅の窓口業務に従事していたが、今年春に転機が訪れた。適性検査を経て、今年三月に



パート車掌として乗務する孫田一美さん

法人(特定非営利活動法人)「フラワー長井線をつなぐ会(FNの会)」(平田元昭代表)が去年八月に発足した。同線の存続を地域全体で支える運動を展開。会員は現在約二千五百人に上り、今後とも会員の増強を図る方針だ。全国的に例のない組織だけに、各方面から注目されている。③は、山形鉄道基金が底をついた場合、新たな公共的資金の投入を意味す

(長井支社・青塚駅)